

2016

神戸学院大学

Green Festival



神戸学院大学 創立50周年記念

第376回 5月24日(火) 17:20開演

能『^{あだちがほら}安達原 ^{しろがしら}白頭』を観る会

シテ/上田貴弘(観世流)

第377回 6月5日(日) 14:00開演

[本学課外活動団体による公演]

神戸学院大学吹奏楽部 第30回サマーコンサート

指揮/松井隆司(音楽監督)

第378回 6月18日(土) 13:30開演

オペラ「奥様女中」とバロック・アリア集

※当日11時からプレ・イベント「オペラ音楽の変遷、バロックから古典派へ」(講演・対談)を開催

出演/横原千史(音楽学者・音楽評論家)、宇野文夫(本学人文学部教授・作曲家)

プレ・イベントの会場は9号館6階961視聴覚教室です

第379回 7月9日(土) 15:00開演

コンテンポラリー・デュオ 村田厚生&中村和枝

～トロンボーンとピアノによる新しい音楽の世界～

入場無料

会場/神戸学院大学有瀬キャンパス メモリアルホール(9号館6階)

主催/神戸学院大学 後援/兵庫県、(公財)神戸市民文化振興財団 参加/関西元気文化圏

- お申込方法 | 往復ハガキを使用してください。私製ハガキや2枚のハガキの貼り合わせは避けてください。申込者多数の場合は抽選になります。
- ・ 往信裏面に①公演日 ②公演名 ③住所 ④氏名 ⑤電話番号をご記入ください。
- ・ 返信表面にお申し込みの方の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。
- ・ 返信表面は空白のままをお願いします。
- ・ 1枚につき1公演、1名様のみのお申し込みになります。
- ・ 受付期間は各公演の1ヶ月前～2週間前(必着)です。
- ・ (※土曜日の場合は月曜日、日曜日・祝日・休日の場合は翌日)
- ・ 学齢期に達していないお子さまの申込および入場はご遠慮いただいております。

～個人情報取扱いについて～

入場申込往復ハガキにご記入いただいた個人情報は、電話での申込内容の確認、入場券の発送(抽選の場合の結果通知含む)、申込状況の統計分析に限って使用します。

※天候により中止になる場合があります。詳細はHPをご覧ください。

- お申し込み・お問い合わせ先
〒650-8586(この郵便番号を使うと住所は省略できます)
神戸学院大学グリーンフェスティバル係
電話078-974-6105(担当部署:社会連携グループ)
- 交通経路と所要時間
有瀬キャンパス
①JR「明石駅」より神姫バス「神戸学院大学行」に乗車(約20分)
②神戸市営地下鉄「伊川谷駅」より神姫バス「神戸学院大学経由明石駅行」に乗車(約10分)
③JR「朝霧駅」より神姫バス「神戸学院大学行」に乗車(約10分)<(注)運行本数少>
公共交通機関をご利用ください。学内の駐車場はご利用いただけません。

関西から



ご案内

グリーンフェスティバルは、地域の方々や本学の学生・教職員に一流の舞台芸術に接していただくべく、毎年春と秋に各4～9回の公演を無料で提供しています。西欧のクラシック音楽、多種多様な演劇、ダンスなどを中心に国内外のアーティストを招き、非常にレベルの高い、また一般の催しとは一味違う公演を企画しており、その独自性が高く評価されています。その一方で、本学課外活動団体の日頃の成果もみなさまに披露させていただいております。

能『安達原 白頭』を観る会

シテ/上田貴弘(観世流)

グリーンフェスティバルで、能が上演されるのは20年ぶりのことです。今回の演目は『安達原』。観世流以外の能、また歌舞伎では『黒塚』というタイトルで演じられる人気曲です。

東北の安達原に住む老女が、実は人を食う鬼女だったという伝説を元に作られています。能では、前半の旅の僧侶を親切にもてなす老女から、約束を破られた怒りで鬼女の本性を現す後半へとドラマチックに進行します。そして、彼女を鬼に変えた理由とは？ 鬼女や襲われた僧侶の結末は？ 見どころがいっぱいです。とくに今回は「白頭」の小書(特別な演出)で、老女らしさがより強調されます。

演じるのは、神戸を代表する観世流シテ方 上田貴弘師。老女と鬼女、孤独の哀しみと怒りという対比的な性格や感情を、ダイナミックにかつ深く表現していきます。ぜひ、能『安達原』のおもしろさを堪能してください。

*本学課外活動団体による公演

神戸学院大学吹奏楽部 第30回サマーコンサート

指揮/松井隆司(音楽監督)

- 曲目 ● シンフォニア・ノビリッシマ(R.ジェイガー)
● 2016年度全日本吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ ある英雄の記憶 ～「虹の国と氷の国」より(西村友)
● 交響的舞曲より第1楽章(S.ラフマニノフ/前田卓) 他

今年のサマーコンサートは、I部Symphonic Stage、II部Pops Stageとなっています。I部は神院Brassらしい明るいサウンドを、II部は「Pops Stage～あの日聴いた歌～」と題し、大人から子どもまで楽しんでいただけるステージをお届けします。私どものモットーは、「From the Heart」。今回も、心の底からお客様に神院Brassのサウンドをお届けいたしますので、皆さまお誘い合わせの上、是非お越しください。

部員一同、皆様のご来場をこころよりお待ちしております。

オペラ「奥様女中」とバロック・アリア集

第1部 ヴィヴァルディ、A・スカルラッチェ、ヘンデルの作品より

出演(声楽)/重松みか・浅井順子・藤井理紗・竹内直紀

第2部 ペルゴレージ 幕間劇「奥様女中」全幕

出演(声楽)/片桐直樹(ウベルト)・小泉文(セルピーナ)・竹内直紀(ヴェスポーネ/黙役)

演出・構成/重松みか ピアノ/關口康祐 弦楽四重奏/アンサンブル・赤松 字幕/齋藤尚希

日本ではオペラというと、モーツァルトを除くと、ロマン派のヴェルディ、プッチーニ、ヴァーグナーが先ず思い浮かびます。しかしオペラの出現は、バロックの最初期1600年頃とされ、バロックの時代に隆盛を極めていました。作曲家モンテヴェルディから、アレサンドロ・スカルラッチェを経てヘンデルに至ったところで、このバロック・オペラは終焉を迎えます。この日の演奏会では、前半でこれらバロックのアリア(歌曲)をお聴きいただきます。

後半では、バロックから古典派への時代の橋渡しとなったペルゴレージのオペラ「奥様女中」を、上演いたします。喜劇風の軽い内容のものですが、オペラ・ブッフアと呼ばれるこの様式は、この作品によって確立されたと言われるほど重要な作品であり、後にモーツァルトの諸作品によって継承、発展されていきます。

内容は、女中が、主人である金持ちの老人を誘惑して、その夫人になってしまうというもので、音楽は、そのやり取りと情感をコミカルに生き生きと描いています。

今回ご出演いただくプロジェクトは、メゾ・ソプラノの重松みかさんが企画されているもので、「奥様女中」も既に何度か上演を重ねられています。決して広く知られてはいない曲目ですが、気楽で楽しく親しみやすい音楽会となります。

プレ・イヴェントとして当日11時から12時まで、961視聴覚室(メモリアルホールと同じ9号館6階)にて、「オペラ音楽の変遷、バロックから古典派へ」と題した講演と対談を行います。出演は、横原千史(音楽学者・音楽評論家)と宇野文夫(本学人文学部教授・作曲家)です。なお、演奏会場へのご入場は、プレ・イヴェントへご参加の方も開場時間の13時からとなります。

コンテンポラリー・デュオ 村田厚生&中村和枝～トロンボーンとピアノによる新しい音楽の世界～

出演/村田厚生(トロンボーン) 中村和枝(ピアノ)

- 曲目 ● カジミエシュ・セロツキ……………ソナチネ
● ルチアーノ・ベリオ……………セクエンツァ第5番(トロンボーン独奏)
● ハンス・オッテ……………碑文
● パウル・ヒンデミット……………アルト・ホルンとピアノのためのソナタ(トロンボーン版)
● カール・ハイネツ・シュトックハウゼン…ピアノ曲第5番(ピアノ独奏)
● 宇野文夫……………日々(改訂初演) 他

20世紀以降、クラシック音楽における創作表現は、それまで以上に様々な新しい試みが行われてきました。その結果、今日の創作音楽は、もはやクラシック音楽とは言えないようなものとなっています。楽器の使用に関しても、それまでのクラシック音楽では主役でなかったような楽器への作曲が、多数為されるようになってきました。トロンボーンもそのような楽器のひとつで、近年多数の独奏作品や、ピアノとのデュオ作品が作られています。本日ご出演のお二方は、こういった流れの中で、新しい音楽に対し、長きに渡り意欲的に取り組んでおられる演奏家で、独奏から様々なアンサンブルに至るまで、幅広く活躍されています。

今回は、全て20世紀以降に作られた音楽です。和音や響きだけでなく、曲によっては様々な新しい奏法も使われます。トロンボーンとピアノによる新しい音楽の表現を、お楽しみください。

出演者の希望で曲目が変更されることがあります。ご了承ください。